#### (19) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

## ⑩公開特許公報(A)

昭58—208135

f) Int. Cl.<sup>3</sup>C 01 G 9/08H 05 B 33/26

7

識別記号

庁内整理番号 6977—4G 7254—3K 砂公開 昭和58年(1983)12月3日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 4 頁)

#### 砂硫化亜鉛系薄膜の製造方法

願 昭57-89119

願 昭57(1982)5月26日

⑫発 明 者 松岡富造

門真市大字門真1006番地松下電

器産業株式会社内

⑫発 明 者 藤田洋介

門真市大字門真1006番地松下電

器産業株式会社内

⑫発 明 者 任田隆夫

門真市大字門真1006番地松下電 器産業株式会社内

70発 明 者 阿部惇

門真市大字門真1006番地松下電

器産業株式会社内

⑫発 明 者 新田恒治

門真市大字門真1006番地松下電

器産業株式会社内

⑪出 願 人 松下電器産業株式会社

門真市大字門真1006番地

⑩代 理 人 弁理士 中尾敏男 外1名

明 網 俳

1、発明の名称

20特

図出

慌化亜鉛系海膜の製造方法

- 2、特許請求の範囲
  - (1) 硫化胆鉛を主成分とし、アルカリ金属、また はアルカリ土類金属の内から少なくとも一種類 以上を含有する硫化亜鉛系燃結体をターゲット とし、高周波スパッタリング法により若板上に 硫化亜鉛系複膜を推樹させることを特徴とする 硫化亜鉛系複膜の製造方法。
- (2) 前記 硫化型鉛系焼結体がMn,Cu,Ag,Al, Tb,Dy,Br,Pr,Sm,Ho,Tm,またはこれらのハロゲン化物のうち少なくとも1種類以上を含むことを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の硫化亜鉛系海膜の製造方法。
- (3) 前配アルカリ金属がLi,Na,K,Rb,Caの うち少なくとも1個であることを特徴とする特 許請求の範囲第1項記載の硫化亜鉛系薄膜の製 造方法。
- (4) 前記アルカリ金属の亜鉛化対する濃度が0.1

~2原子まであることを特放とする特許請求の 範囲第1項記載の硫化亜鉛系薄膜の製造方法。

- (6) 前記アルカリ土類金属が Ca, Mg, Sr, Baの うち少なくとも1種であることを特徴とする特 許請求の範囲第1項記載の硫化亜鉛系海膜の製 造方法。
- (6) 前記アルカリ土類金属の服鉛に対する濃度が 0.02~2原子のであることを特徴とする特許 研求の範囲第1項に記載の硫化亜鉛系被膜の製 電方法。
- 3、発明の詳細を説明

本発明は、硫化亜鉛系薄膜の製造方法に関し、 とりわけ、薄膜中に微小粒子や、ピンホールを含 まない均質で高品質な硫化亜鉛系薄膜の製造方法 に関するものである。

従来、硫化亜鉛系導膜は、硫化亜鉛系焼結体を 電子ビーム蒸着することにより形成されていた。 この際用いる硫化亜鉛系焼結体は、硫化亜鉛粉末 またはMn,Cu,TbP3などの活性物質を含む硫化 亜鉛粉末を、たとえば400kg/cmの圧力で成形 し、不活性ガスまたは硫化水素を含む不活性ガス中で、1000℃~1200℃の温度で、1~3時間焼成することにより形成されていた。このように形成した硫化亜鉛系焼結体に選子ビームを照射し、加熱蒸発させ、硫化亜鉛系溶膜を形成した場合、溶膜中に1~20ミクロンの粒径の微小粒子やピンホールが生するという欠点があった。またこのような濃酸をBL溝膜として応用した場合、微小粒子やピンホールが原因となり、絶縁破壊を引き起し、安定なBL 米子を形成することができない。

このように 旗膜中に 微小粒子やピンホールを生 する原因は、 電子ビームを 照射した時に 硫化亜鉛 焼結体が 帯電し、 静電反発力により 微小粒子が 飛 散し、 基板表面に付着するためと考えられる。

一方、硫化亜鉛系料膜は高周被スパッタリング 法によって形成することもできる。すなわち、硫 化亜鉛粉末またはMn,TbFs などの活性物質を含 む硫化亜鉛粉末を所定の寸法の板に成形し、不活 性ガスまたは硫化水素を含む不活性ガス中で

し、高周放スパッタリング法で複機形成を行った場合、複膜中の微小粒子やビンホールが皆無に近く、かつ化学は論性に優れた結晶性の良い高品質で均質を硫化性新系複膜、特にBL発光にかい出版を示す複膜が形成できることを見い出したものである。また従来の焼結体や粉が高高くなったのである。また従来の焼結体や粉が高高くなりと対し、スパッタリングが焼結体は、密度が高く、粒後が大きいため、ターゲットとした場合、スパッタリングが焼結体状面から均一租成でかつ一様に対するためと考えられる。また露加するアルカリな風としては、Li,Na,K,Rb,Co が有効であり、添みが適当であった。

つまり0.1 多米湖では効果が微弱であり、2 多より上では、焼成時に焼成容器と反応する欠点があった。

アルカリ土類金属としては、Ca,Mg,Sr,Ba が有効であり、添加量としては、亜鉛に対する濃 1000~1200℃の温度で1~3時間焼成することによりターゲットを作成する。ターゲット 寸法が大きい場合は上記劣明気焼成が一般に困難 であるので粉末状のまま焼成し、一部焼結した固 まりを砕いてターゲットにする場合が多い。

以上の様化して作成したターゲットを用い高周波スパッタリング法で硫化亜鉛系薄膜を作成した場合、電子ピーム蒸着法におけるような微小粒子やピンホールは比較的少ないが、硫化亜鉛自身の化学量論性が悪く、格子欠陥を多くして、特にB L 素子に応用した場合、その輝度が低くなる。結局薄膜の結晶性が悪いといえる。

本発明は上記従来技術にもとづき、欠陥のない 高品質な硫化亜鉛系海膜を、特に最廃性,低コストに優れているスパックリング法によって形成する方法を提供するものである。

すなわち、硫化亜鉛を主成分とする粉末に、ア ルカリ金属またはアルカリ土類金属を添加して、 不活性ガスまたは硫化劣出気中で熱処理すること により形成した硫化亜鉛系焼結体をターゲットに

度がOO2~2原子もが適当であった。つまり、OO2原子も未満では効果が微弱であり、2原子もよ満では効果が微弱であり、2原子もより上では、焼成時に焼成容器と反応する欠点があった。また低化亜鉛系焼結体中に、Mn,Cu,Ag,Al,Tb,Dy,Ev,Pr,Sm,Ho,Tm, またはこれらのハロゲン化物のうち少なくとも1個類以上を含む場合においても、アルカリ金属またはアルカリ土粗金属の添加が有効である。

以下実施例により説明する。市版の硫化亜鉛粉末(粒径0.1~1.5ミクロン)に、種々のアルカリ金融化合物を添加し、乳鉢により混合した後、約10重量多の水を加え、さらに混合した後造粒した。この粉末を400kg/amの圧力で成形し、直径1.5cm,厚さ5mmの円板とし、これを硫化水素昇川気または不活性ガス昇川気中で、100~1200温度で、1時間の焼成を行なった。第1炎に使用したアルカリ金属化合物またはアルカリ土類金属化合物の種類がよび破废,焼成み明気、焼成品度、焼成時間、および供られた硫化亜鉛系焼結体の密度(理論密度

に対する割合)をがす。

**館 1 表** 

添 加	物質	쐤	成 条	件	
村 知	读 度 (原子多)	杂刨気	(て)	時 間 (br)	密度 (%)
LiCe	2	H2 S	1000	1	91
Lino	2	H2 S	1000	1	91
NaCe	2	H2 S	1000	1	91
K Cg	2	H2 S	1100	1	90
RbCe	2	H2 S	1100	1	90
CBCE	2	H2 S	1100	1	90
BaC &	0,3	Ar	1100	1	98
BaC &	0,03	H2 S	1100	1	9 1
BaC & SrC &	0,1 0,1	H2'S	1 200	1	98
BaCe, CaCe,	0,1 0,1	H2 S	1200	1	98
BaCl,	0,1 .0,1	H2 S	1200	1	98
Ba (OH)2	0,1	H2 S	1100	1	9 6

第1段から判るように母られた焼結体の密度は、

	従米スパッ タリング法	本発明スパッ タリング法	電子ピーム法
ターゲット	66多密度 ZnS:Mn	BaCl を添 加した91男 密度ZnS:Mn	蒸発源 65%密度の ZnS:Mn
パワー ₩/cm²	2,4	2,4	
集板温度で	250	260	220
アニール温度で	550	5 <b>6</b> O	560
# ×	Ar	År	真空
ガス圧(torr)	3 × 1 0 <sup>-2</sup>	3 X 1 0-2	5 × 1 0 -4
スパッターおよ び蒸発時間 (分)	5	. з	3
膜 净 🐧	5000	5000	5000
レイト 1/分	1000	1660	1660
飽和興度 (フットランジート)	460	950	900
安 定 性	割合絶縁破巣し易い	安定	絶縁破壊し易 い
海 與			微粒子 ピンホールあり

持開昭58-208135(3)

理論密度の90%以上であった。この焼結体を用 いて、高周波スパッタリング法により硫化亜鉛系 薄膜を形成したところ、従来の製法の硫化亜鉛系 焼結体(一般に理論密度の658)や粉末状の8 - ゲットを用いて同様に形成した脊膜に比べて、 **薄膜中の微小粒子やピンホールがもちろん無く、** 結晶性の良い高品質な硫化亜鉛系海膜を形成する ことができた。

また図面に示すような思し黒子の思し発光体層 4 を、本発明の方法、すなわち0.03原子もの塩 化パリウムとOB原子もの Mn を含む硫化亜鉛系 焼結体をターゲットにして高樹波スパッタリング 法で薄膜を形成し、発光特性(周波数 5 KHz の正 弦波で励起)を測定した結果、絶縁破壊に対する 安定性に優れ、かつ高い輝度のBL君子であるこ とが判明した。

従来法と比較し、その作成条件ならびに特性を 第2役にまとめた。

第2表には従来例として電子ビーム法も配して ある。この場合、蒸発源として直径15㎜,厚さ 10㎜の65%密度の08焼結体ペレットを用い た。第2表から明らかなように本発明の高密度の ZoS 焼結体をターゲットにしてスパッタリング法 で作成した薄膜は、従来のスパッタリング法の薄 膜に比較し、安定でBL発光強度も約2倍と高い。 源膜作成時のレイトも約1.8倍で効率的である。

また、電子ピーム法に比較しても絶縁破壊の点 で俊れている。

以上のように、本発明の製法によれば、ピンホ - ルヤ微小付着物が優めて少なく良質の硫化胆鉛 系海膜が再現性よく形成でき、光学海膜、蛍光体 旗膜, RL 薄膜として応用した場合、光学特性や 安定性の優れた素子を形成することができる。

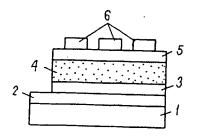
#### 4、図面の簡単な説明

図面は本発明の一尖施例の製法方法により形成 されたBL虫子の構造を示す。

1 ……ガラス基板、2 ……透明単板、3 ……酸 化イットリウム薄膜、4……マンガン付活硫化型

鉛海膜、6……酸化イットリウム海膜、6……アルミニウム電極。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名



## (19) The Patent Office in Japan

# (12) Public Patent Report (A)

(11) Patent application number SHO 58 - 208135

(43) Open date December 3, 1983

(51) Int.Cl.<sup>3</sup> ID symbol Reference number for the patent office use C 01 G 9/08 6977-4G 7254-3K

Number of Invention: 1

Request for examination: Examination not requested (Total 4 pages)

(54) Manufacturing method of zinc sulfide thin film

(21) Application number TOKUGAN SHO 57-89119

(22) Application date May 26, 1982

(72) Inventor: Tomizo Matsuoka

c/o Matsushita Denki Sangyo K.K.

1006-banch, Oaza Kadoma, Kadoma-shi, Osaka

(72) Inventor: Yosuke Fujita

c/o Matsushita Denki Sangyo K.K.

1006-banch, Oaza Kadoma, Kadoma-shi, Osaka

(72) Inventor: Takao Tokita

c/o Matsushita Denki Sangyo K.K.

1006-banch, Oaza Kadoma, Kadoma-shi, Osaka

(72) Inventor: Jun Abe

c/o Matsushita Denki Sangyo K.K.

1006-banch, Oaza Kadoma, Kadoma-shi, Osaka

(72) Inventor: Koji Nitta

c/o Matsushita Denki Sangyo K.K.

1006-banch, Oaza Kadoma, Kadoma-shi, Osaka

(71) Applicant: Matsushita Denki Sangyo K.K.

1006-banch, Oaza Kadoma, Kadoma-shi, Osaka

(74) Attorney: Patent attorney Toshio Nakao (and one more person)

Details

1. Name of invention

Manufacturing method of zinc sulfide thin film

### 2. Range of the patent claims

- (1) It is a manufacturing method of the zinc sulfide related thin film, which shall be characterized by piling the zinc sulfide related thin film on the substrate by the high frequency sputtering method, making zinc sulfide related sintered body as the target, which shall contain the main ingredient as zinc sulfide and at least one kind of the alkaline metals or the alkaline earth metals.
- (2) It is a manufacturing method of the zinc sulfide related thin film, which is mentioned in Claim 1 of the range of the patent claims, which shall be characterized by containing at least one kind of the halide materials, which are Mn, Cu, Ag, Al, Tb, Dy, Er, Pr, Sm, Ho and Tm as the abovementioned zinc sulfide related sintered body.
- (3) It is a manufacturing method of the zinc sulfide related thin film, which is mentioned in Claim 1 of the range of the patent claims, which shall be characterized by having at least one kind of Li, Na, K, Rb and Cs as the abovementioned alkaline metals.
- (4) It is a manufacturing method of the zinc sulfide related thin film, which is mentioned in Claim 1 of the range of the patent claims, which shall be characterized by having the amount of density against the abovementioned alkaline metals to be between 0.1 and 2 atm%.
- (5) It is a manufacturing method of the zinc sulfide related thin film, which is mentioned in Claim 1 of the range of the patent claims, which shall be characterized by having at least one kind of Ca, Mg, Sr and Ba as the abovementioned alkaline earth metals.
- (6) It is a manufacturing method of the zinc sulfide related thin film, which is mentioned in Claim 1 of the range of the patent claims, which shall be characterized by having the density against zinc of the abovementioned alkaline earth related metals, which is in between 0.02 and 2 atm%.

## 3. Detailed explanation of the invention

This invention is concerning the manufacturing method of the zinc sulfide thin film, especially it is concerning the manufacturing method of the high quality zinc sulfide thin film, which does not have small particles nor pin holes within the thin film.

Currently, the zinc sulfide thin film is created by applying the electron beam deposition to the zinc sulfide sintered body. The zinc sulfide sintered body, which is used in this case, is created by firing for one to three hours at the temperature of between 1000 °C and 1200 °C within the inert gas or the inert gas which shall contain hydrogen sulfide after

molding zinc sulfide powder or zinc sulfide powder which shall contain the active substance such as Mn, Cu or  $TbF_3$ , etc. at the pressure of  $400 \text{ kg} / \text{cm}^2$ . In the case that the zinc sulfide thin film is created by the zinc sulfide sintered body, which the electron beam is irradiated to and shall be evaporated by heating, there was a problem of generating small particles of the particle sizes of 1 to 20 micron and pin holes within the thin films. Also, when applying such thin films for the purpose of the EL thin film, because of the small particles and pin holes, insulation destruction shall occur, and as a result, it is not possible to create a stable EL element.

The cause of generating small particles and pin holes is because the zinc sulfide sintered body is charged when the electron beam is irradiated, and small particles are scattered by the electrostatic repulsion, then they would be stuck to the surface of the substrate.

On the other hand, the zinc sulfide thin film can also be created by the high frequency sputtering method. Therefore, the target shall be created by firing for 1 to 3 hours at the temperature of between 1000 and 1200 °C within the inert gas or the inert gas which shall contain hydrogen sulfide after molding the zinc sulfide powder or the zinc sulfide powder which shall contain the active substance such as Mn, Cu or TbF3, etc., into the board with the designated measurement. In the case that the target measurement is large, because the abovementioned atmosphere firing would become generally difficult, firing would most likely be made with the powder condition, then the target would be made by smashing the lump, which is partly sintered. In the case that zinc sulfide thin film is made by the high frequency sputtering method using the target, which is created as mentioned, there are relatively smaller numbers of small particles and pin holes as it occurs when the electron beam deposition is applied, however, stoichiometry of the zinc sulfide is bad, which shall create more lattice defects, and especially when it is applied for the EL element, the luminance shall become low. After all, it means that the crystallization of this thin film is bad.

This invention is made to provide the forming method based on the abovementioned existing technique, in order to create high quality zinc sulfide thin film without any defects using the sputtering method, which is excellent for mass production and excellent in the cost performance.

When the thin film forming is applied by the high frequency sputtering method making the target as zinc sulfide sintered body, which is created by giving the heat treatment within the inert gas atmosphere or sulfide atmosphere to the powder, which shall have the main ingredient as zinc sulfide, which either alkaline metals or alkaline earth metals is added to, it was found out that such thin film can be created, which shall indicate high luminance, especially at EL emitting, and shall show almost no small particles nor pin holes within the thin film, and shall have high quality and even zinc sulfide thin film with excellent stoichiometry and crystallization. Also, compared to the existing sintered body and powder style target, it was found out that the sputtering rate became higher. It is probably because when creating the zinc sulfide sintered body using such a method, the density would be high and the particle size would be large, therefore, by making it as the target, sputtering shall occur from the surface of the sintered body at the even

composition and equally to the whole surface. Also, as for the adding alkaline metals, Li, Na, K, Rb or Cs are effective, and as to the addition amount, 0.1 atom% to 2 atom% of the thickness against zinc was the suitable amount. Therefore, if it is less than 0.1%, the effect would be very weak, and if it is more than 2%, it would react against the firing container when firing.

As for the alkaline earth metals, Ca, Mg, Sr and Ba are effective, and as for the additional amount, 0.02 atom% to 2 atom% of the thickness against zinc was the suitable amount. Therefore, if it is less than 0.02 atom%, the effect would be very weak, and if it is more than 2 atom%, it would react against the firing container when firing. Also, in the case that at least one of the halide of Mn, Cu, Ag, Al, Tb, Dy, Ev, Pr, Sm, Ho or Tm is contained, the addition of the alkaline metal or the alkaline earth metal would also be effective.

Hereinbelow, an explanation shall be made according to the implementation example. Various alkaline metallic compounds or various alkaline earth metallic compounds are added to the zinc sulfide powder (particle size 0.1 to 1.5 micron, goods on the market), and after mixing shall be performed by a mortar, approximately 10 weight% of water shall be added, and mixed together again, then granulated. This powder was molded at the pressure of 400 kg/cm² in order to create a circle board of the diameter 15cm and the thickness 5mm, then firing was performed to this within the inert gas atmosphere at the temperature of between 1000 and 1200 °C for one hour. Table 1 shall indicate the type, firing atmosphere, firing temperature and firing period of the alkaline metallic compound or the alkaline earth metallic compound used as well as the density of the zinc sulfide sintered body, which was obtained (rate against theoretical density).

Table 1 (P.195, left upper)

Addition	-,	Firing			Density (%)
substance		condition			
Type	Thickness	Atmosphere	Temperature	Time	
	(atom%)		(°C)	(hour)	
LiCl	2	H <sub>2</sub> S	1000	1	91
LiNO	2	H <sub>2</sub> S	1000	1	91
NaCl	2	H <sub>2</sub> S	1000	1	91
K Cl	2	H <sub>2</sub> S	1100	1	90
RbCl	2	H <sub>2</sub> S	1100	1	90
CsCl	2	H <sub>2</sub> S	1100	1	90
BaCl <sub>2</sub>	0.3	Ar	1100	1	98
BaCl <sub>2</sub>	0.03	H <sub>2</sub> S	1100	1	91
BaCl	0.1	H <sub>2</sub> S	1200	1	98
SrCl <sub>2</sub>	0.1			_	
BaCl <sub>2</sub>	0.1	H <sub>2</sub> S	1200	1	98
CaCl <sub>2</sub>	0.1				
BaCl <sub>2</sub>	0.1	H <sub>2</sub> S	1200	1	98
MgCl <sub>2</sub>	0.1				
Ba(OH) <sub>2</sub>	0.1	H <sub>2</sub> S	1100	1	95

¥.

As it is seen from Table 1, the density of the sintered body, which is obtained, was more than 90% of the theoretical density. Using this sintered body, zinc sulfide thin film was created by the high frequency sputtering method. The result was that it was able to create the zinc sulfide thin film of higher quality and good crystallization compared to the thin film, which is created using the target of the zinc sulfide sintered body (generally 65% of the theoretical density) and powder style, which are made by the existing manufacturing method, and it had no small particles and pin holes within the thin film.

The thin film was created by the manufacturing method of this invention, which shall mean that the thin film was created by using the high frequency sputtering method making the target as the zinc sulfide sintered body, which shall contain Mn of 0.8 atom% and barium chloride of 0.03 atom%, as for the EL emission layer 4 of the EL element, which is shown in the figure, and then the emitting characteristic (excitation occurs at the sine wave of the frequency 5 KHz) was measured. As a result, it was found that the EL element was stable against the insulation destruction as well as having the high luminance.

Table 2 shows the creating condition and the characteristics compare to the existing method.

Table 2 (P.195, left, bottom)

14010 2 (1.1.20, 101., 0	Existing sputtering	Sputtering method	Electron beam
	method	of this invention	deposition method
Target	ZnS: Mn of 65% density	ZnS: Mn of 91% density, BaCl is added	Evaporation source ZnS: Mn of 65% density
Power W / cm <sup>2</sup>	2.4	2.4	
Substrate temperature °C	250	250	220
Anneal temperature °C	550	550	550
Gas	Ar	Ar	Vacuum
Gas pressure (torr)	3 x 10 <sup>-2</sup>	3 x 10 <sup>-2</sup>	5 x 10 <sup>-6</sup>
Sputtering and evaporation time (min.)	5	3	3
Film thickness Å	5000	5000	5000
Rate Å / min.	1000	1660	1660

Saturated luminance	450	950	900
(Foot Lambert) Stability	Relatively easy to have insulation destruction	Stable	Easy to have insulation destruction
Thin film			Small particles and pin holes exist

Table 2 indicates the results of the electron beam deposition method as an example of the existing methods. In this case, the 0.8 sintered body pellet of 65% density, thickness of 10 mm and the diameter of 15 mm was used for the evaporation source. As it is clearly seen from Table 2, the thin film, which is created by the sputtering method making the target as the ZnS sintered body of high density of this invention, is stable and the emitting intensity is approximately twice as much compared to the thin film, which is created by the existing sputtering method. The rate when creating the thin film is also approximately 1.6 times, which is efficient.

Also, it is better compared to the electron beam deposition method from the insulation destruction point.

As it is mentioned, by using the manufacturing method of this invention, high quality zinc sulfide thin film, which produces extremely small numbers of pin holes and small particles, can be created with a good reproduction, and when it is applied to the use of the optical thin film, the phosphor thin film and the EL thin film, it is able to create the element with excellent stability and optical characteristics.

## 4. Simple explanation of the figure

The figure shows the structure of the EL element, which is created by the manufacturing method of the implementation example of this invention.

- 1. Glass substrate
- 2. Transparent electrode
- 3. Yttrium oxide thin film
- 4. Manganese added zinc sulfide thin film
- 5. Yttrium oxide thin film
- 6. Aluminum electrode

Name of Attorney: Patent attorney Toshio Nakao (and one more person)